

企画展

北海道立アイヌ民族文化研究センター
斜里町立知床博物館

やま だ ひで ぞう
山田秀三の地名研究から

2012年夏……斜里／知床

◆ 斜里町立知床博物館 (斜里町本町 49-2)

7月7日(土) ▶ 8月26日(日)

- 開館時間 9:00~17:00
- 休館日 月曜日(ただし、7月16日は開館します)
- 観覧無料 (斜里町立知床博物館常設展をご覧になる場合は、同館の入館料が必要です。)
- 講座・講演会は参加無料

関連事業

展示解説講座 7月7日(土) 16:30~17:30

斜里町立知床博物館

- 講師 北海道立アイヌ民族文化研究センター職員

講演会 7月14日(土) 17:30~20:30

斜里町立知床博物館

「斜里アイヌの歴史と文化」

- 近世シャリのアイヌ社会
—シャリ・アバシリの漁場の記録を中心に—
講師 谷本 晃久氏(北海道大学准教授)
- 19世紀末の斜里アイヌの暮らし
—ヒッチコックの記録をとおりて—
講師 出利葉浩司氏(北海道開拓記念館事業部長)



背景の地図：国土地理院発行5万分の1地形図「知床峠」「羅臼」などを貼り合わせ、山田秀三氏が古地図の記載や現地調査の記録などを書き込んだもの。(山田秀三文庫[YF0036-03])



上部の写真：山田秀三氏による知床の地名調査の記録より。ルシャ川・テッパンベツ川河口を船から写す。1974年撮影。(YF0036-01)

下部の写真：同じく、斜里町・峠の海岸(島戸狩川の河口付近)。1974年撮影。(YF0036-01)

人物写真：山田秀三氏。室蘭・チャラツナイの海岸にて。1960年2月撮影。(YP1305-008-19)

斜里市街及び会場周辺図：斜里駅から博物館までの部分を拡大して表示しています

アイヌ語地名を歩く

地名は、地域の歴史と文化をさまざまなかたちで反映しています。その地域に暮らす人々にとってはもっとも身近な存在の一つが地名であり、その地域を訪れる人々にとっては地域を知り、親しむ手引きにもなります。

北海道の地名の多くは、アイヌ語に由来しています。これらのアイヌ語地名について知ることは、それぞれの地域について知ることであり、このことを通して、アイヌの歴史と文化を知るとぐちとなります。

当研究センターが所蔵する「山田秀三文庫」は、アイヌ語地名研究の第一人者である山田秀三氏(1899~1992年)が遺した、アイヌ語地名に関する他に類を見ない貴重な資料であり、各地の地名に関する記録が豊富に含まれています。

この展示では、山田秀三文庫の資料から、斜里町・知床半島とその周辺を中心に、山田氏が用いた地図、現地で撮影した写真、それらをまとめた記録などを紹介しながら、山田氏の地名調査のあとをたどっていきます。

期間中には、展示解説の講座と、アイヌの歴史と文化に関する講演会も開催します。

多くの皆様のご来場を、心よりお待ちしております。